

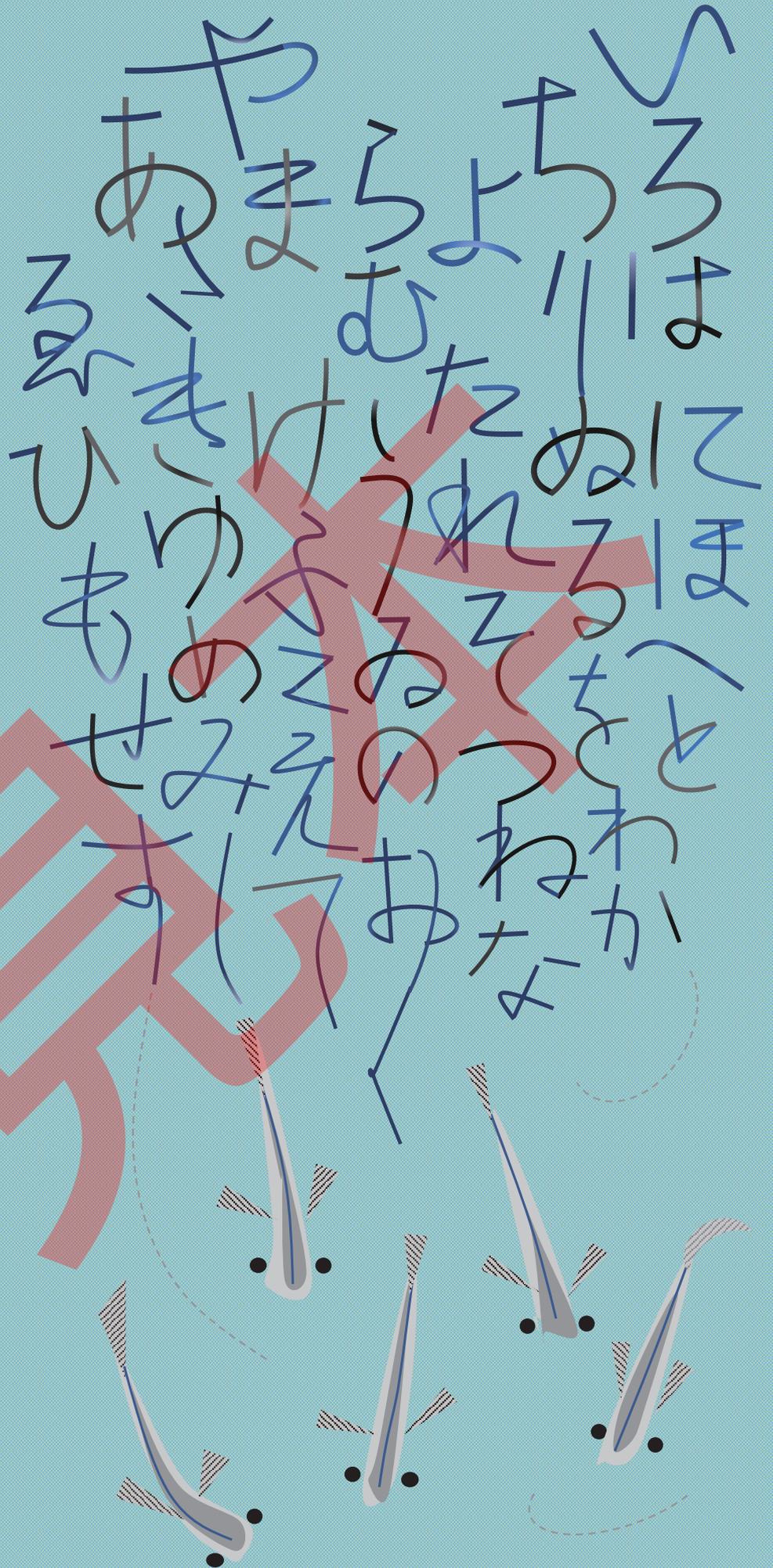
令和6年度版

表現の友

3

年

愛知教育文化振興会
三河教育研究会



表現の友 3年

一 文章の種類を選んで書こう

○ 魅力的な紙面を作ろう **旅行記** (教 P.34) …… 2

○ 俳句を作って楽しもう **俳句** (教 P.75) …… 5

○ 多角的に分析して書こう **批評文** (教 P.130) …… 7

二 生き方を見つめよう

― 体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―

○ 読書感想文を書こう **読書感想文** …… 10

○ 読書感想文を練り上げよう **読書感想文** …… 15

○ 詩を書こう **詩** …… 16

○ 生活作文を書こう **生活作文** …… 19

付録 入試問題に挑戦しよう

…………… 26

※(教)…光村図書 教科書対応ページ



1年

一 ささまざまな表現を楽しもう

○ 情報を整理して書こう **説明文** (教 P.34) …… 2

○ 項目を立てて書こう **案内文** (教 P.118) …… 3

○ 根拠を示して説明しよう **レポート** (教 P.138) …… 4

○ 構成や描写を工夫して書こう **随筆** (教 P.220) …… 8

二 生き方を見つめよう

― 体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―

○ 読書感想文を書こう **読書感想文** …… 10

○ 自分を語ろう **漢字** …… 15

○ 詩を書こう **詩** …… 16

○ 生活作文を書こう **生活作文** …… 19

付録 記述問題に挑戦しよう

…………… 26

2年

一 ささまざまな表現を楽しもう

○ 多様な方法で情報を集めよう **ガイドブック** (教 P.34) …… 2

○ 表現を工夫して書こう **手紙・電子メール** (教 P.111) …… 4

○ 魅力を効果的に伝えよう **鑑賞文** (教 P.114) …… 7

二 生き方を見つめよう

― 体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―

○ 読書感想文を書こう **読書感想文** …… 10

○ たのしみを伝えよう **独楽吟** …… 15

○ 詩を書こう **詩** …… 16

○ 生活作文を書こう **生活作文** …… 19

付録 記述問題に挑戦しよう

…………… 26

一 文章の種類を選んで書く

一 魅力的な紙面を作ろう

修学旅行記を書く



わたしたちは、今までの学習で、小説・詩歌・論説・随筆など、さまざまな種類の文章を学んできました。自分が表現したいことは、一つの文章だけでなく、複数の文章や、写真、図表などを組み合わせることで、より魅力的なものになります。ここでは、修学旅行の思い出を、さまざまな文章の種類を用いながら、紙面構成を工夫して書いてみましょう。

二 文章の種類を決めよう

○同じ項目でも、文章の種類によって、伝わり方が変わる。内容が効果的に伝わるよう、文章の種類と素材を考える。

■ いろいろな文章の種類と特徴

文章にはいろいろな種類がある。伝えたい内容に合った文章の種類を選んでみよう。

【記録文】 自分の体験や見聞した事実を時間の経過などに即して書いた文章。

【報告文】 体験や調査結果を相手にわかるように知らせた文章。

【随筆】 体験や見聞したことなどについて、感想や考えを他の人にもわかるように述べた文章。

【紀行文】 旅行中の体験や感想を中心に書き記した文章。

【その他】 短歌・俳句・批評文・日記など。

（いろいろな文章の種類と書き方の例）

文章の種類	見出し	書きたいこと
記録文	富士山を越えるまで	富士山を登り始めて、三合目あたりまでは疲労を感じなかったが、そこから少しずつ足が重くなってきた。五合目に到着したあたりで、体を高度に慣れさせるためにその場でしばらく過ごした。高山病対策だそうだ。八合目の山小屋で一泊し、早朝に出発した。そして七時頃には、山頂にたどり着くことができた。
随筆	登山と人生	登山は人生に似ている。毎日の生活を自分で考えて生きていくように、山も自分の足で一步一步登っていくしかない。わたしは、入試という大きな山を越えていかなければいけない。一生懸命勉強しているのに、結果が出ずにつらいこともある。しかし、上ばかり見るのではなく、目の前の今できることを積み重ねていきたい。山頂である志望校合格に向けて頑張りたい。
俳句	富士山で一句	太陽さえ 隠してしまう 壮大さ
報告文	日本一の富士山 世界遺産に	富士山は、日本でいちばん高い山である。なんと約三七七メートルもある。遠くから見ると、美しさも日本一である。そんな富士山は二〇一三年に世界文化遺産に登録された。信仰の対象と芸術の源泉であり、世界中の人が守っていく必要のあるものとして認められた。



■ 紙面構成を考えよう

(一) わかりやすい紙面構成を考えよう

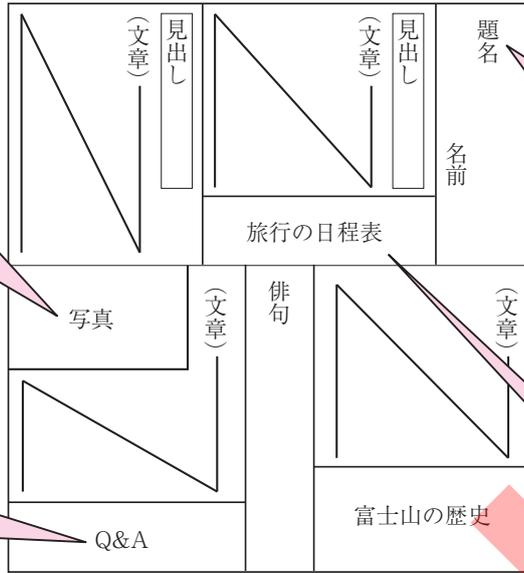
- 書く内容や内容の順序や分量を考える。
- 図表や写真、イラストなどの位置や大きさを考える。

○コラムや関連情報を入れるスペースを入れるとよい。

■ 紙面構成の例

興味を引く題名を考えよう。

「修学旅行のしおり」を参考にしよう。



まとめるときのために、写真を撮っておこう。なければ、パンフレットの写真を利用しよう。

書ききれなかった話題は、コラムで補うとよい。

〈書きたいことをメモしよう〉

項目	文章の種類	見出し	書きたいこと
(例) 富士山	俳句	富士山で一句	太陽さえ隠してしまう 壮大さ

紙面作成のポイント

- 文章の種類に合った構成や表現を工夫する。
- 読み手を引きつける見出しやキャッチコピーをつける。
- 写真やイラスト、図表などの配置を工夫する。
- 文字の大きさや色などを工夫する。
- 読み手の興味や、読み手がどの程度の情報をもっているかなどを考え、まとめ方を工夫する。



(二) 3 ページの見本を参考に、紙面構成を考えよう。

題名

氏名

三年

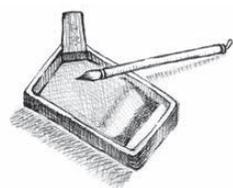
組

番

見本



俳句を作って楽しもう



俳句は、五・七・五というリズムをもった世界で最も短い詩です。五・七・五・七・七のリズムをもつ短歌とともに、日本の伝統的な短詩型の文学です。俳句は、江戸時代から現代にいたるまで、多くの人々に親しまれてきました。みなさんも、自分らしい感動を切り取った俳句を創作してみてください。

北風に負けじと耐える枯葉かな	安藤 貴啓 (生徒作品)
神前に願いが積もる初詣	清水 陽平 (生徒作品)
口喧嘩並んで雑煮作る朝	山口 恵奈 (生徒作品)
待ってるよ甲子園には俺が行く	内藤 久文 (生徒作品)

俳句の基本を押さえよう

(一) 定型

五・七・五の十七音を定型とする詩型

(上五)	(中七)	(下五)
五	七	五
古池や	蛙とびこむ	水の音

- 「字余り」「字足らず」…五・七・五の定型から音数がずれたもの
- 「自由律俳句」…五・七・五の定型にとらわれないもの

(二) 季語

季節を表す言葉。一句の柱となる言葉に「季語」を用いる。

- 季節感を表すためによりみ込まれる語。
- 短詩型としての表現の不足を補うため、季語をよみ込む。
- 現代では季語にこだわらない俳句も増え、「無季俳句」と呼ぶ。
- ※ 「定型」で「季語」を用いることを、「有季定型」という。

(三) 切れ字

俳句の中で、内容や意味を途中で切るはたらきをする語。

○ 作者の強い感動を示し、「ああ、…」 「おお、…」 という詠嘆を表す。

〈主な切れ字〉	(二音) ぞ、や、か、よ
	(二音) かな、けり、らむ
	(三音) もがな

俳句の基本的な作り方を知ろう

(一) 俳句の作り方

俳句の作り方には、大きく二つの作り方があります。

A 〈取り合わせ〉 (例) 神前に 願いが積もる 初詣

感動を「五七」や「七五」で表現する ↓ 季語を組み合わせる
※ 感動と季語にずれが生じるため、「類句」になりにくい。

B 〈二物仕立て〉 (例) 北風に 負けじと耐える 枯葉かな

季語を決める ↓ 情景や心情を説明する言葉を組み合わせる
※ 簡単に連想される言葉と組み合わせるだけでできるが、「類句」になってしまいがち。言いたいことが伝わりにくい、内容が薄くなってしまうことが多い。

どちらの作り方でも、素晴らしい俳句はできますが、作ることに慣れていない人はまずA 〈取り合わせ〉で俳句を作ってみましょう。



III 俳句を作ってみよう

(一) 俳句にしたいことを短い文で表してみよう

【例】

今年のお盆に祖父の家に行き、庭から見
えるきらきら光る海と雲一つない青い空が
まぶしかった。

(二) 「五七」または「七五」を考えてみよう

• 雲なき空に 続く海
• 青い海 太陽輝く

(三) いろいろな季語を組み合わせてみよう

三音や四音の季語には、「切れ字」な
どをつけて字数を合わせよう

• 終戦日 雲なき空に 続く海
• 涼しけり 太陽輝く 青い海
• 青い海 太陽輝き 浜暑し

I

--	--	--

•	•	•
---	---	---

•	•	•
---	---	---

II

--	--	--

•	•	•
---	---	---

•	•	•
---	---	---

III

--	--	--

•	•	•
---	---	---

•	•	•
---	---	---

(四) 完成した俳句を書こう

--	--	--



多角的に分析して書こう

説得力のある批評文を書く

批評文とは、自分が興味をもった事柄について、そのよさや特徴、問題点や改善点などを、根拠を明らかにして評価する文章です。批評文を書くことで、そのものに対する認識が深まったり、新たな考え方を獲得できたりします。関心のある事柄を選び、批評文を書いてみましょう。

■ 次の例文を参考に、批評文の内容や書き方を学ぼう

最近、新聞やテレビ、ネットニュースなどさまざまなメディアで、若者の読書離れという問題が取り上げられている。では、読書をしない、本を読まないということは本当に問題なのであろうか。一般的に読書は、心を豊かにし、知識を増やし、言語能力を高める。つまり、読書は人を成長させると考えられている。また、想像力や表現力などのさまざまな力を読書から得ることができるとも言われている。つまり、若者の読書離れには、その機会が失われてしまっているというイメージがある。

読書離れの問題を考えると、一つの視点として、その問題が起きた原因を考えてみた。そこで、読書によって得られる情報や、身につく力が、他のもので代用されているのではないかと私は考えた。

読書の代わりになっているものは何かと考えたときに、すぐに思い浮かぶのはインターネット、または、ドラマ、アニメ、YouTubeなどといった映像メディアである。確かに、インターネットを使えば、瞬時に情報は手に入るし、映像メディアには活字では伝えられない情報を伝えられる。その点は、読書よりも手軽で魅力的に思える。しかし、そういったものが本当に読書から得られるものをすべて補えているのだろうか。インターネットには、瞬時に情報を得られるという利点はあるが、言い換えれば情報を得る際の無駄をいっさい省いているということになる。自分に必要な情報だけを知るのではなく、読書を通していろいろな情報や知識を得ることこそ、知識が増え、言語能力が養われるのではないだろうか。

また、映像メディアはとても便利で魅力的である一方、主体性に欠けてしまうと私は感じる。再生ボタンを押せばあとは自動的に映像が流れ出し、こちらはその映像を受け取るだけである。しかし、読書は自分で活字を目で追っていくき、そこからさまざまなことを想像し、考えていかなければならない。そこにある主体性にこそ、人間が成長できる大切なポイントがあるのだと思う。

実業家ウォルト・ディズニーマの言葉に、「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、宝を毎日味わうことができるのだ。」というものがある。世界には多くの本が存在するが、その中から自分の宝物になるものを見つけて考えること、とてもわくわくした気分になるであろう。

「読書」とは、自分の人生を豊かにする最高のツールだ。そして、それは他の何ものにも代えることはできないのである。

考え・主張

● いちばん伝えたいことは（主題）

一般論・現状

- 一般的に（一般論）
- ○○という（連想）
- ○○というイメージがある（一般論）

見方を深めて分析する

- 新しい視点を加えてみると（視点の転換）
- 言い換えれば○○だということであろう（言い換え）
- 実は○○を伝えようとしている
- ○○を象徴する存在として（分析・意味づけ）
- ○○の立場と○○の立場の関係が（分析・関係性）
- ○○が示されている（分析）

引用

● ○○という言葉がある（考えの補強）

まとめ

- ○○と思わせてくれる（全体の印象）
- ○○とは○○だ（評価・価値づけ）



■ 批評文を書いてみよう

- (一) 関心のある事柄をテーマにしよう
 ○下のテーマ例などを参考に、日々の生活や体験したこと、メディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。
 観点を立てて分析しよう
- (二) 観点ごとによい点・問題点などに分けて根拠を考えると、
 ○事柄の背景や関連する事柄を調べる。
 ○自分の体験や身の回りの出来事につなげて考える。
 ○「もし○○なら」と仮定したり、類似したものと比較したりして、特徴を考える。
 ○説得力のある資料を引用する。(引用したら、出典を明らかにする。)
- (三) 論理の展開を考えよう

○テーマと観点の例

- ・ 公共施設のマーク (形・色・意味)
- ・ スポーツ中継 (アナウンス・解説・中継)
- ・ 地域の問題 (現状・背景・改善案)
- ・ 人物 (業績・性格・エピソード)
- ・ 音楽 (歌詞・メロディー・テーマ)



* 例文の展開例

テーマ 『若者の読書離れ』				
【考え・主張】 最近、若者の読書離れという問題がよく取り上げられている。	【一般論・現状】 一般的に、読書は人を成長させると考えられる。	【見方を深めて分析する】 ・なぜその問題が起きたのか、その原因を考えてみた。 ・瞬時に情報を得られるのは、言い換えれば無駄をいっさい省いているということ。	【引用】 ウォルト・ディズニーマの話を引用する。	【まとめ】 読書は他の何ものにも代えることはできない。

* 自分のテーマで展開例を書いてみよう

テーマ 『 』				
【考え・主張】	【一般論・現状】	【見方を深めて分析する】	【引用】	【まとめ】



(四) 批評文を書こう

○六百〜八百字程度で書く。

○友達と読み合い、助言をもとに清書する。

考え 主張	一般論 現状	見方を 深めて 分析する	引用	まとめ

考え・主張

- いちばん伝えたいことは(主題)

一般論・現状

- 一般的に(一般論)
- ○○というと(連想)
- ○○というイメージがある(一般論)

見方を深めて分析する

- 新しい視点を加えてみると(視点の転換)
- 言い換えれば○○だということであろう(言い換え)

- 実は○○を伝えようとしている

- ○○を象徴する存在として(分析・意味づけ)

- ○○の立場と○○の立場の関係が(分析・関係性)

- ○○が示されている(分析)

引用

- ~という言葉がある(考えの補強)

まとめ

- ○○と思わせてくれる(全体の印象)
- ○○とは○○だ(評価・価値づけ)



二 生き方を見つめよう

― 体験をおして自分を見つめたことを

いきいきと書こう―

学習のめあて

本に書かれた内容をとらえ、社会生活をおして自分の思いや考えを深め、論理の展開を工夫して書こう。

― 読書感想文を書こう ―

■ 本の選び方の「1つ1」

読書感想文を書くために最も大切なことは、自分にとって価値ある本を選ぶことです。自分という人間を見つめ直すきっかけとなったり、生き方を考えさせられたりする価値ある本を選びましょう。

著者	書名
出版社	

■ メモを取りながら読み取ろう

作品をおして作者が言いたかったこと（主題）をまず考えましょう。疑問に思うところや理解できないところは、繰り返し読みましょう。

内容を読み取る手助けとしてメモを取るとよいでしょう。心に残った部分や印象的だった部分に付箋紙を貼っていきます。読み終わった左ページの「メモを取る視点」を参考にメモを取りましょう。付箋紙にメモを取ると、あとで構成を考えるときに並べ替えることができ、便利です。

■ 材料を選ぼう

感想文を書いていくために、取り終わったメモを整理します。特に中心になる感想を決め、それに関わる形で使えるものを選んでいきましょう。自分の体験と関わりのあるものを中心に据えるとよいでしょう。さらに、その内容と関わりのある自分の体験を書き出していきます。

■ 構成を考えよう

書くための材料が集まったら、それをどのように並べて感想文を書いていくかを考えましょう。自分の考えをわかりやすく伝えるためにも、読み手をひきつけるためにも、どのような順番で書いていくかは重要です。

○ 構成例

はじめ	なか 1	なか 2	まとめ	むすび
<ul style="list-style-type: none"> ● 本の中の最も印象に残った場面やせりふ、キーワード ● 本を読んだときの自分の驚きや読み終わったあとの自分の変化 ● 登場人物の呼びかけやメッセージ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 登場人物の生き方、考え方と自分との共通点 ● 作品と関わる自分の生活の様子や経験 ● 選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活 	<ul style="list-style-type: none"> ● 登場人物のせりふや行動に対する自分の考え ● テーマについて考えたこと ● 共感できること、できないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ● 登場人物と自分自身の生き方、考え方の共通点 ● 登場人物と自分自身の生き方、考え方の相違点とその理由 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の心の成長や生き方についての考え ● 今後の自分の生活に役立てたいこと



(一) 本の中の印象的な場面やせりふを、二重線の四角に書き出そう。
※付箋紙を使えば、P14で構成を考えるとときにそのまま貼り替えて使えます。

(二) 本の登場人物の体験と似たあなた自身の体験を
思い出して、四角の中に書いてみよう。

○メモを取る視点

- ①心を揺さぶられた言葉や感動したこと
- ②疑問に思ったこと、批判したいこと
- ③登場人物や著者、テーマについて考えたこと
- ④自分の周囲の社会や生活に関わりのあること



○読書をきっかけに、自分の体験を見つめ直そう

- ・作品中の出来事や登場人物の行動と関わりのある自分の体験を積極的に書いていこう。
- ・「自分の考え、行動」など、自分自身と作品の関わりを、自分の言葉で書こう。



「成功」に近づくために

豊橋市立高豊中学校三年 伴 唯華

江戸時代、現代のような西洋数学は日本に伝わっておらず、中国をルーツとする数学、和算が日本の数学者の間で流行っていた。関孝和はその中の一人である。彼はただ数学を愛しただけでなく、理論を追究し、理解できるまで深く考えて問題を解いていった。自分で答えが見つからないときは、他の数学者と話し合ったり、多くの書物を読んだりして、数学を究めた。

「円周率の謎を追う 江戸の天才数学者・関孝和の挑戦」。この本を読んでいてふと思う。私と孝和は少しばかり似ている。私も数学や理科の勉強をしながら、公式を当たり前と思えず、なぜそうなるのかを追究してしまうことがある。だから、孝和の考え方には共感できた。

また、読んでいるうちに私と孝和の大きな違いにも気づいた。孝和の場合、興味をもったらとことん追究する。一つの方法でうまくいかなくても他の方法を考え、解決にまで至る。私の場合、うまくいかないとすぐに問題を投げ出してしまう。私が数学を好きになれない理由はそれだ。孝和の「諦めない気持ち」は、今の私に一番足りないものだと実感した。

孝和は世界に通用する数学の理論を生み出した。しかし、そこまでの人生を一人で歩んできたわけではない。数学を学ぶきっかけとなったのは兄・永貞だ。両親のいない孝和の父親代わりであった永貞に厳しくされながらも、多くの場面で支えられて育った。

また、数学に対する視野を広げてくれたのは、孝和にとって数学の師である柴村先生や沢口先生たち。数学を楽しく続けられたのは柴村先生の娘、香奈のおかげだ。孝和はたくさんの人に支えられた。その一人一人が孝和の人生の中で大きな役割を果たしている。これは自分も同じだと感じた。

私は自分の友達や家族、先生などさまざまな人を使い浮かべてみた。その一人一人が、私の人生の中で大切な存在だ。その中の一人でも欠けていけば、今の自分はいないかもしれない。私は「仲間を有難く思う気持ち」を忘れていた。仲間たちがいることを当たり前だと決めつけてはならない。孝和の人生から仲間の大切さを改めて感じる事ができた。

さて、孝和を支えた仲間の一人である沢口先生。彼が数学と他の学問との両立に悩む孝和に言った言葉は、私の心に突き刺さった。

はじめ

- ・最も印象に残った場面やせりふ、キーワード
- ・読んだときの自分の心の動き
- ・登場人物の呼びかけやメッセージ
- ・といった内容を書いていきます。

この作文では、作品のテーマや登場人物の生き方について要約して書いていきます。

作品のテーマ
登場人物の生き方

なか1

- ・登場人物の生き方、考え方と自分との共通点
- ・作品と関わる自分の生活の様子や経験
- ・選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活といった内容を書いていきます。

この作文では、主人公との共通点や相違点を具体的に上げながら、気づきや気持ちの変化を書いています。

登場人物の生き方、考え方と自分の共通点・相違点
自分の生活の中での気づき

なか2



「わたしは、どちらも大切です。だからどちらも全力でやります。御用も、生涯をかけて研究する数学も、中途半端な気持ちではできません。」

何度も読み返した。圧倒された。同時に自分自身を情けないと感じた。一つのことだけだったら、私だっていつも全力で取り組んでいるつもりだ。だが、二つ三つと課題が増えて行けば、何かを切り捨てるのが普通になっていた。なぜ私は「全て全力」を選ばなかったのだろう。今までの自分の行動を後悔した。しかし、挽回のチャンスがないわけではない。この本を読んで、この生き方を見つけることができた。

「全て全力」を決めた私は、これから先、きつと変われるに違いない。今まで出来ないと思っていたことが、出来るようになるかもしれない。沢口先生に元気づけられた気がした。彼は孝和にとっても、私にとっても、かけがえのない恩師だ。

孝和の偉大な業績が世界の数学者に知られたのは、明治以降、彼の死から二百年後だ。彼の業績には誰もが驚かされた。残念ながらノーベル数学賞はない。ましてやノーベル賞は生きている人にだけ与えられる賞だから、孝和はもう、もううことができない。しかし、彼の発見はノーベル賞を受賞してもおかしくないほどのものだ。

孝和は数学に関して成功を収めた。それだけでなく、御用と数学との両立も果たした。成功は簡単なことではない。何をするにも必ず失敗という困難が待ち受けている。その先に成功というゴールがあるのだ。

失敗を乗り越えるために「諦めない気持ち」「仲間を有難く思う気持ち」を忘れない、そして「全て全力」で突っ走る。そんなことを孝和の人生から教えられた。それが、成功するためのヒントなのである。

そして、成功を手に入れたからと安心してはならない。成功というゴールは挑戦という名のスタートに変わるのだ。人生はその繰り返しなのだと思う。新しい挑戦に出会えば出会うほどたくさんの経験ができ、たくさんの成功を味わえる。私はこれから、様々なことに挑戦していきたい。

この本から、多くのことを得ることができた。孝和は本当にすごい人だったと思う。私はまだ、生まれてたった十四年。これから数えきれないほどの失敗を繰り返して、困難に立ち向かうことになるだろう。だが、乗り越えられる気がする。成功に近づくために、強い自分でありたい。

25

30

35

40

45

- 登場人物のせりふや行動に対する自分の考え
- テーマについて考えたこと
- 共感できること、できないこと
- といった内容を書いていきます。

この作文では、登場人物のせりふから考えたことが書かれています。

登場人物のせりふ
そこから考えたこと・気づき

まとめ

- 登場人物と自分自身の生き方・考え方の共通点とその理由
- 登場人物と自分自身の生き方・考え方の相違点とその理由
- といった内容を書いていきます。

この作文では、登場人物の生き方との相違点からこれからの自分の生き方について書いていきます。

自分と登場人物との相違点から
教えられた生き方

むすび

- 自分の心の成長や生き方についての考え
- 今後の自分の生活に役立てたいこと
- といった内容を書いていきます。

この作文では、作品を読み、今後の自分はどう生かしていくかが書かれています。

今後の自分にどう生かしていくか

(三) 前のページを参考にして読書感想文の構成を考えてみよう。
 ※「なか1」「なか2」には、P11で書いた付箋紙をそのまま貼ることもできます。

書く事柄とその順序



※下のQRコードを読み取ると、
 ワークシートを入手できます。



ポイント

- 最も印象に残ったせりふ。
- 自分の驚きや心の変化。
- 登場人物へのメッセージ。など

自分の「生活体験」を書きます

- どんな体験でもよいわけではありません。「自分の読んだ本と関連した体験」を見つけてみます。そして、自分の生活を振り返り、似たような体験を書きます。
- 全く同じ体験である必要はありません。
- 選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活を書くことが大切です。

あなたの「読書体験」を書きます

- 読んだ本の魅力を書きます。
- 心に残った登場人物のせりふや行動などを引用しながら、本のテーマについて、自分なりの解釈や感想を書きましょう。
- 特に次の点に注意しましょう。
 - ①主人公の心を大きく変える事件
 - ②主人公の心を揺さぶったせりふ
 - ③主人公の成長につながる人物
 - ④主人公がこだわる人、物、行動
- 登場人物と自分自身の生き方や考え方の共通点を見つめます。
- 本を読んだことで、自分自身の「心の成長」にどうつながったかを書きます。

- 本を読んだことで得た「心の成長」を、今後の自分の生活にどう生かしていくかを書きます。

むすび	まとめ	なか 2		なか 1		はじめ



読書感想文を練り上げよう

書き出し方の「つ」

書き出しを工夫してみましよう。いくつか例をあげるので、参考にしてください。

印象的だった言葉の引用から

「このままでいい。見守ろう。やつと旦那さんに会えるんだ。」
末期の胆のう癌の安曇さんが危篤のとき、主治医の栗原一止はこう言った。

話の舞台の説明から

現在、世界でまだ戦争が起こっている地域がある。それらの中には互いの価値観の違いや宗教・人種の違いによる差別や偏見が原因のものもある。

読中や読後の感想の一言から

人と本当にわかり合うとは、どういう事だろう。真の友達ってどんな関係だろう。果南と透子の二人の姿を追いながら、私はずっとそのことを考えていた。

主人公の描写や言動の引用から

コナーは死期に近い母を持ち、そのことで周囲から特別扱いされていた。周りから孤立し、いじめられてさえた。

本の内容と重なる家族の話から

今年僕の祖母がなくなった。祖母はまさに戦争時代のど真ん中を生きた人で、とてもたくましい寅年の蠍座の女の人の人だった。祖母はよく戦時中の話をしてくれた。

本の登場人物や読者への呼びかけから

「宇宙」という場所に一体何人の人が夢を思い描くでしょうか。きっかけは本当にささいなことでした。

気持ちや感想を表現する「つ」

気持ちや感想の表現を工夫すると、印象が変わり、あなたらしさが表れます。自分の感想を表すのに、ぴったりの表現を考えましよう。

1 より具体的に書く

- (例) おもしろかったです。 ↓ 思わず笑い出していました。
- (例) 感動しました。 ↓ 気づくと涙がこぼれていました。

2 たとえの表現を使って書く

- (例) 悲しくなりました。 ↓ 目の前が真っ暗になりました。
- (例) 緊張しました。 ↓ 石のように体が動きませんでした。

3 慣用句を使って書く

- (例) 驚きました。 ↓ 思わず息をのみました。
- (例) 感動しました。 ↓ 心をうばわれてしまいました。

感想文に使用したい表現を探してみよう。



おもしろい	はらはら どきどき わくわく 笑わずにはいられない 思わずふき出してしまふ ゲラゲラ笑う 腹がよじれる	悲しい	涙が止まらない 胸をえぐられる 心が痛む 身を切られる やるせない 胸が苦しい せつない
感動する	心を動かされる ため息がでる 胸が熱くなる 胸がいつぱいになる 胸に刻まれる 心をうばわれる	うれしい	うきうき 心がはずむ 胸が高鳴る にやにやする 自然に笑みがこぼれる ほっとする



依存

刈谷市立依佐美中学校三年

廣瀬 里菜

① 軽くて薄いこの物体
 小さく便利なこの物体
 友を繋げるこの物体
 私を支配するこの物体

体言止め
反復法

② 朝の光で目を覚ます
 白い天井を数秒見つめ、
 新しい日を迎える
 次に瞳に映るのは、
 母の笑顔ではない
 庭の野菜でもない
 静かに佇む、軽くて薄い
 この物体である

私の目覚めを
 待っていたかのように、
 触れた瞬間光りだす
 朝のあいさつなんか聞こえず、
 この物体に引きずり込まれる
 本当にいいのだろうか

体言止め
反復法

③ 号令と共に響く声
 一目散に教室を飛び出し、
 朝の道を逆走行
 見慣れた部屋で手に包むのは、
 浄化された水ではない
 学校の教科書でもない
 冷たくたたく、
 小さく便利なこの物体である
 私の帰りを
 待っていたかのように、

もつ情報を放ちだす
 帰宅のあいさつなんか忘れて、
 何時間も目をそらさない
 本当にいいのだろうか

④ 友と過ごす休日のひと時
 自然に出る笑顔で、
 和やかな時間を過ごす
 会話がなくなり手に取るのは、
 氷が溶けた飲み物ではない
 最近はやりの雑誌でもない
 奥深くたたく、
 友を繋げるこの物体である

自分の出番を
 待っていたかのように、
 メモリーに二人の笑顔を
 刻み込む
 コミュニケーションなんか
 取らず、
 互いの視線は合わないまま
 本当にいいのだろうか

⑤ 課題に追われる一日の終盤
 焦った様子で、
 えんぴつを走らせる
 通知音で気にするのは、
 進まない課題ではない
 小さくなった消しゴムでもない
 そばにたたく、
 私を支配するこの物体である

受信の知らせを
 待っていたかのように、
 光と音で自分を主張する
 ほとんど白紙の課題になんか
 目もくれず、
 せわしく指を動かした
 本当にいいのだろうか

直喩

⑥ 本当にいいのだろうか
 もっと聞くべき言葉が
 あるはずだ
 もっと言うべき言葉が
 あるはずだ
 向き合うのは、
 友ではないか
 向き合うのは、
 自分自身ではないか

対句

⑦ 私たちは依存している
 軽くて薄いこの物体に
 小さく便利なこの物体に
 友を繋げるこの物体に
 私を支配するこの物体に

倒置
反復法

⑧ 本当にこれでいいのだろうか

反復法 反語(いや、よくない)

『みかわの子』第59号

②③④⑤連は表現を類似させている ⑥作者の主張 ①と⑦は対応している ⑧で自分自身と読者への問いかけ

P 16の【例】を参考に、表にまとめてみましょう。
 上段やP 18に生徒作品が掲載してあります。参考にしてく
 ださい。

テーマ	象徴	時間	出来事・考え	キーワード



見つけた夢

蒲郡市立蒲郡中学校三年

小林 美陽

① 「大きくなったら、何になりたい？」
反復

幼稚園のときから聞き慣れた言葉
三才のときはお姫様
四才のときはお花屋さん
ころころ変わってきた
私の夢

② 「大きくなったら、何になりたい？」

今年は中学三年生となり
四年後には大学生
いつの間にか
自分で進路を選ぶ年になっていた

③ 「大きくなったら、何になりたい？」

私は美術部に入部した
ダメ元で応募した
建築デザインのコンテスト
私は賞をとった

④ 「大きくなったら、何になりたい？」

私は街中の建物を見るようになった
黒い家、丸い家、平屋の家、古い家
立ち並ぶ家々
こんなにいろいろな家があったとは…

⑤ 「建築って、人が実際に入ることが
できる唯一の芸術じゃない？」

母の言葉が、
私の心の琴線に触れた
街は芸術にあふれている
住む人を何十年にもわたり守る
通りすがりの人を笑顔にする
人々を支え、幸せにする

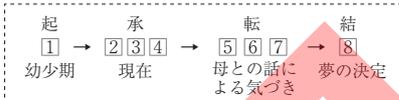
⑥ 「大きくなったら、何になりたい？」

こんな仕事^{反語}が他にあるだろうか
私の夢
独創的な家を造れる
みんなの夢を創れる
建築家になりたい

⑦ 「大きくなったら、何になりたい？」

「大きくなったら、何になりたい？」
私の夢

『みかわの子』第60号



(二) 詩を作ろう

① (一)の④「エピソード」を一つの「連」にまとめてみましょう。
もし、一つの連でまとめるには長いと感じるときは、二つ、三つの連に分けましょう。
最初の「状況設定」や、最後の「メッセージ」はなくてもかまいません。原稿用紙に書く前に、詩の構成を考えておきましょう。

状況設定	エピソード1	エピソード2	エピソード3	考察 【感じたこと】	メッセージ

② 最後の仕上げです。声に出して読んでみましょう。もし、言いにくかったり、つかえたりするところがあれば、別の言葉に言い換えてみましょう。友達に読んでもらうのもよい方法です。

生活作文を書くこうし

中学校生活の中で、今までと違う自分の姿を見つけたり、気がついたりしたことはありませんか。周りの人々とのふれあいの中で、あるいは、家庭生活や社会の中のいろいろな体験をとおして、驚き・不安・喜び・期待などを感じたことがきつとあるでしょう。

自分の生活を振り返り、それを作文に書くことは、たいへん意義深いことです。なにげない日常生活の中で、自分自身の心の変化を見つけることが大切です。それを文章に綴ることによって、一步一步、中学生としての自覚、ひいては自分の生き方を見つける姿勢が身につけていくことになるのです。

■ 題材を見つけよう

いつもの生活の中から、心に残った出来事を思い出してみましょう。

○書けそうなことを、おおまかに思い出して、○で囲もう

家族	部活動	仲間	学校行事
地域・伝統	福祉体験	勤労	習い事・趣味
悩み・怪我・病気		その他()	()

○題材になりそうな体験や出来事を思い出し、○を付けよう

- () あるものの存在が、自分にとってどんな意味があるかを考えるきっかけとなった出来事
- () 自分が新たな行動を起こすきっかけとなった体験
- () 嫌だったことが誇らしいことになったなど、感じ方が変化した体験

○題材になりそうな体験や出来事を思い出し、付箋紙ふせんしを使い図式化してみましょう。

・意味や感じ方が変化する前の自分、新たな行動を起こす前の自分

・変化のきっかけになった人物、出来事

--	--

出来事 人物

変 容

・意味や感じ方が変化した後の自分、新たな行動を起こした後の自分

○では、図式化した自分の体験や出来事を、どのように表現すればよいか、参考作文を読んで、イメージしてみましょう。



たかが基本、されど基本

豊橋市立中部中学校三年

倉田 和 呆

工夫された
表現

はじめ

① 「ああ、疲れた。」

土曜日の部活動が終わった。そして、ようやく一週間が終わったという解放された気分がで、玄関を開けた。

「あれ。」

母の靴がある。いつもは私より帰りが遅いのに、今日は珍しく仕事が終わったらしい。

「たっいま。」

リビングに入ると母が寝ている。

「どうしたの。仕事は。」

「仕事が早く終わったのはいいんだけど、ちよつと頭が痛くて……。」

母が寝込むことはめったにないので心配だ。そんな私の気持ちを察したのか、

「最近暑かったから、夏バテかね。少し涼んでご飯食べたら治ると思うので大丈夫。お昼ご飯は何か作るで、のんちゃんはシャワー浴びて、着替えておいで。」

と言って、起き上がろうとした。でもやはり具合が悪そうだったので、

「あつ、お母さんは寝てて。お昼ご飯は私が作るから。」

と言って、母に無理やり布団をかけた。

「のんちゃんを作ってくれるの。部活で疲れてるのに悪いね。」

母が申し訳なきように言う。でも、毎日私と姉のために働いて、家事や私の送り迎えなど忙しそうに動き回っている母の姿を見て、申し訳ないと思っていた。部活動や勉強を言い訳に見えぬふりをしていただけだった。だからこそ、この機会に日頃の感謝を伝えたい。

② まずは、お味噌汁を作ることにした。冷蔵庫を開けてお味噌汁の具を探すと、真っ先に大根が目に入った。大根なら切り方も調理の仕方

も知っている。それに、よく母が作るお味噌汁にも入っているの迷

心情を対比的に描いた効果的な表現

会話を多用することでその時のやりとりをいきいきと表現している

なか

味噌汁作りの動機を複数挙げ、「なか」への導入にしている

わず大根に決めた。種類だけでは寂しいと思い、豆腐を探したけれど見当たらなかった。だから、油あげを入れることにした。大根は拍子切り、油あげは短冊切りにして、鍋に入れた。とりあえず大根が煮えるまで少し携帯を触ろうとしたとき、

「あつ、だし。」

だしを入れていないことに気がついて、慌てて火を止めた。

「お母さん、お味噌汁のだしは。」

と聞くと、

「かつおぶしでとればいいよ。」

と教えてくれた。しかし、かつおぶしでだしをとったことはなかったので、再び母に、

「どのくらい使えばいいの。」

と聞くと、

「一つかみくらいかな。」

と教えてくれた。かつおぶしを握って母に見せると、

「もうちよつと多い方がいいかな。お母さんがやるわ。」

と起き上がろうとする。慌てて母を寝かせ、

「大丈夫。だいたい分かったから。お母さんはゆっくりしてて。」

と言った。母に手伝ってもらっては意味がないのだ。本当はまいちだしのとり方が分からなかったが、それっぽくだしをとり、具材を入れた。具材が煮えたので味噌を入れて、火を強めた。その間に作り慣れた玉子焼きを作った。そんなことをしていたら、お味噌汁がぐつぐつと沸騰していたので急いで火を止めた。こうして何とかお昼ご飯を作ることができた。

擬態語を入れることで様子を具体的に描写

③ 「お母さん、できました。」

母を呼んで、机にご飯を並べる。

「のんちゃん、ありがとね。いただきます。」

母がにっこりと笑ってそう言った。私はとてもうれしくなった。私も、

「いただきます。」

と言って、できたばかりのお味噌汁をすすった。

「ん。」

お味噌汁を口に含んだ瞬間、ほんの少し違和感を感じた。だしも味噌も母の作るお味噌汁とは一緒なのに、全くの別物のようだった。おいしいと言ってくれている母に、

「何かちょっと違う感じがしない。」

と聞くと笑いながら、

「のんちゃんの味。」

と言った。気になるのでしつこく聞いてみると、

「かつおぶしのだしはお水が沸騰してからとるんだよ。」

と教えてくれた。さらに続けてこう言った。

「お味噌を入れた後は絶対に沸騰させたらだめだよ。お味噌の風味と香りが全部飛んじゃうからね。」

思い当たることはかりだった。それにかつおぶしのだしは沸騰して

からとることも、お味噌汁は沸騰させてはいけないことも、小学校の

家庭科で習ったことを思い出した。

「お味噌汁の基本だよ。今度作るときはこの基本を守って作ってごらん。そうしたらもっとおいしいお味噌汁ができるから。」

そう言われてはっとした。私はいつも基本を疎かにしてしまふ。剣

道部でもコーチに、

「素振りや基本の打ちを大切にしない。基本がしっかりしたらんと試合では勝てんぞ。」

と、基本について言われることがある。素振りや基本の打ちは地稽古

や試合練習に比べると単調だ。しかし、その作業を地味にこつこつと、

そして毎日続けることが最も大切なことだ。剣道部の夏はとにかく暑

い。面に防具、袴はかまとまるでサウナのように熱気がこもる。冬は冬で、

足の裏から伝わる冷たさは体中が震えるほどだ。逃げ出したくなる日

もたくさんあったが、どんなときも「基本」を忘れてはならない。

お味噌汁だって同じだ。私の作るお味噌汁と母の作るお味噌汁。見

ないかの差だと思う。目には見えない「基本」はとても大切な役割を

果たしているのだ。母は、「基本」を難なくこなし、さらにお味噌汁に

は毎日違う具が入っている。このような細かい工夫から母の愛情をも

のすくく感じた。昨年父を亡くし、母ももちろんつらかったと思う。

でも、私や姉を気遣う母の姿はとても頼もしく、何度も何度も助けら

れた。

違和感の正体が母の言葉で明確になっていくことを表現

果たしているのだ。母は、「基本」を難なくこなし、さらにお味噌汁に

は毎日違う具が入っている。このような細かい工夫から母の愛情をも

のすくく感じた。昨年父を亡くし、母ももちろんつらかったと思う。

でも、私や姉を気遣う母の姿はとても頼もしく、何度も何度も助けら

れた。

⑥ 次の日、母の体調もよくなり、もう一度お味噌汁を作った。

「だしは沸騰してから入れる……。味噌は……。」

基本はなかなか覚えることができない。だからこそ毎日の積み重ね

が大切なのだ。

「よし。できた。」

できあがったお味噌汁の見た日は、昨日と同じだった。

「いただきます。」

口に含んだお味噌汁は昨日とは全くの別物だった。ほんの少しのこ

とでこれほど変わるのかと驚いた。母に感想を聞くと、

「やっぱり今日の方が格別においしいね。」

と言ってくれた。

「基本って忙しいと面倒くさいなって思うんだけど、大切なんだよね。」

私も母と同じようなことを考えていた。基本とは簡単なことが多い。

ちよつと手間をかけたがり、少し気をつけたりするだけで大きな差がで

きることを思い知った。

「どんなことでもたかが基本、されど基本。頭では分かっているけど、

適当にごまかしちゃうときがあるけど、必ずどこかで手を抜いたこと

が分かっちゃうんだよ。」

本場にそのとおりだと思った。基本を積み上げる大切さをお味噌汁

から、剣道から、そして母から学ぶことができた。東京で暮らす姉を

ふと思ひ、帰ってきたらお味噌汁を作ってあげようと思った。それま

で何度も練習をして、基本を積み上げていこう。帰省してくる日が、

いつもより楽しみだ。

『みかわの子』第58号

※下のQRコードを読み取る

と、以前に掲載された作文

を読むことができます。



回想を入れて、構想を工夫している

⑤

④

85

80

75

70

65

60

おわり

⑥

⑦

110

105

100

95

90

■ 主題文を書く

「主題」とは、「読み手に伝えたい、変化した気持ちや考え」のことです。どんな「題材」を取り上げて、どんな「主題」を書くか、はっきりさせましょう。この題材と主題を一続きの文にしたものが「主題文」です。主題文を書くと、書きたいことがはっきりします。

(一) 「たかが基本、されど基本」の主題文の例を読もう

題材	主題
出来事・場面	変化した気持ち・考え
味噌汁作りを通して、基本を疎かにしてしまっていた自分と向き合った。	基本は簡単なことが多いが、その積み重ねが大きな差になることに気づいた。

【主題文】

味噌汁作りを通して、何事にも基本を地道に守り続けることが最も大切であり、「たかが基本、されど基本」を毎日続けることが大きな差になることに気づいた。

(二) 19ページで図式化した題材をもとに、主題文を書く

題材	主題
出来事・場面	変化した気持ち・考え

【主題文】

■ 構想表を書く

主題文が書けたら、構想表を作りましょう。どの出来事や場面を取り上げるのか、どのような順序で書くのか、何を詳しく書くのかなどを書き込みましょう。

○ 「たかが基本、されど基本」の構想表を読もう

主題文		
はじめ	なか	おわり
<p>書きたい事柄とその順序</p> <p>① 味噌汁作りのきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 母の体調不良、日頃の感謝を伝えたい。 	<p>② 試行錯誤の味噌汁作り</p> <ul style="list-style-type: none"> だしをとる順番を間違えたこと。 沸騰させてしまったこと。 <p>③ 「基本」を守らなかつたことによる違和感</p> <ul style="list-style-type: none"> 味噌汁を口に含んだ瞬間の違和感。 「お味噌汁の基本だよ。」 <p>④ 部活動における「基本」の回想</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動のコーチに言われた言葉。 どんなときも「基本」を忘れてはならない。 <p>⑤ 基本に対する気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基本」はとても大切な役割を果たしている。 母の姿に何度も何度も助けられたこと。 <p>⑥ 「基本」を守り、再挑戦した味噌汁作り</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本を守るには毎日の積み重ねが大切。 	<p>⑦ たかが基本、されど基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ちよつとの手間で、大きな差ができる。 どんなことでも「たかが基本、されど基本」 何度も練習して、基本を積み上げていこう。

味噌汁作りを通して、何事にも基本を地道に守り続けることが最も大切であり、「たかが基本、されど基本」を毎日続けることが大きな差になることに気づいた。

○構想のヒント
 どのような構成にすると、自分の思いをより効果的に表現できるでしょうか。構成の仕方をいくつか見てみましょう。

・時系列にそって書く場合

(例) 状況やそのときの心情がわかる書き方

はじめ	①母の事故と混乱する私
なか	②事故によって生活が変わったこと ③事故の怖さと健康であることへの感謝 ④友達の悩みを聞いて感じたこと ⑤母の仕事とその存在の大きさ
おわり	⑥母への思い

(注) 番号は、書き進める順序

・時系列を変えて書く場合

(例) 現在の様子から入り、その状況に興味をかきたてる書き方

はじめ	①弟と将棋をし、負ける僕	現在
なか	②祖父と将棋をした思い出 ③将棋に引き込まれていく弟 ④弟の決意 ⑤祖父の死	過去
おわり	⑥弟と将棋をする僕。弟によって受け継がれた祖父の思い。	現在

・その他、物語の「設定・展開・山場・結末」と同じ四場面構成の方法もあります。

○構成の仕方によって、読み手の印象がどのように変わるか確かめてみましょう。

(一) 「たかが基本、されど基本」は22ページの構想表の順序で書かれています。しかし、この構成を変えてみると、読み手の印象はどのように変わるでしょうか。

例えば、次の(ア)の場面を「はじめ」にした場合、それぞれの場面は、どのような順番にするとよいでしょうか。また、その場合、読み手はそれぞれのどのような印象を受けるでしょうか。

(ア) 味噌汁が完成し、口に含んだ瞬間に感じた違和感から

(③場面から)

(イ) 剣道部でも基本を疎かにしてしまうエピソードから

(④場面から)

○場面を並べる順序によって、読み手の受ける印象が変わることがわかりましたか。次のページで構想表を書くとき、エピソードの順序にもこだわってみましょう。



(二) 23ページの「構想のヒント」を参考に、構想を立てよう

書きたい事柄とその順序

書かれているとよい内容

※付箋紙を貼るのに適した大きさになっています。

○構想表を書く順序

(1) 出来事・場面を整理する

・付箋紙を用いて、出来事や場면을項目ごとに書き出す（後で整理するので、重ねて貼ってもかまいません）。

・全ての場面がそろったら、時間の流れにそって並べ替える。

・詳しく書きたい場面を決める。

・書かなくてもよさそうな事柄の付箋紙を外す。

(2) 書く順序を決める

・貼られている付箋紙に、時間の流れにそって番号をふる（時間の流れを確認しながら書き進められます）。

・書いていく順番に付箋紙を貼り替える（主題文の内容がより効果的に伝わるように順番を考えてみよう）。

※時系列で書く場合

はじめ：出来事の発端

なか：その後の様子

おわり：変化した自分の気持ち

※時系列を変えて書く場合

はじめ：今現在の様子や自分

なか：今の自分になるまでの

出来事

おわり：今の自分の気持ち

(3) 詳しく書くことを決める

・付箋紙の近くに、その場面での会話、人物の行動、表情、周りの情景をできるだけ詳しく思い出して書く。

○出来事のはじまりやきつかけ。

○時・場所。

○出来事の場面紹介。

○登場する人物の説明や自分との関係。

○登場する人物の行動や表情、会話と、それらから感じられたり、考えられたりすること。

○自分自身に起こった変化のクライマックスの様子。

※下のQRコードを読み取ると、ワークシートを入手できます。

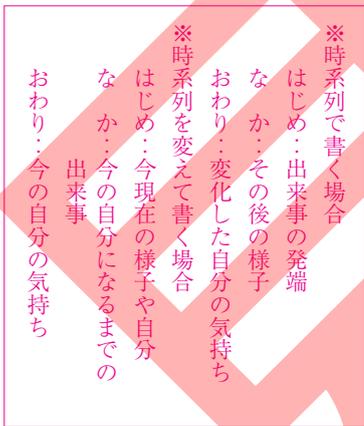
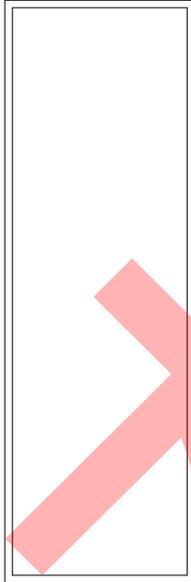


主題文（自分自身に起こった変化のまとめ）

※22ページに書いた主題文をここに書く。

な か

はじめ



おわり	
	<p>○今後どのように生活や行動をしていくか。</p> <p>○今の自分の気持ちや考え。</p>

四 作文を書こう

○ 題名の工夫をしよう
次に挙げたのは『みかわの子』の作品の題名です。参考にしましょう。

主題を象徴する具体的な物品や人物、行動から

- ・ 「村の葉餅」
- ・ 「僕と妹の『オクラ』」
- ・ 「たった一時間の反抗期」
- ・ 「知らないかった兄の顔」
- ・ 「祖父と時計」
- ・ 「重い傘」

比喩（隠喩）や情景描写から

- ・ 「一秒間の歴史」
- ・ 「風のスイッチ」
- ・ 「前を向くその先に」
- ・ 「笑顔の秘密」
- ・ 「Kがくれた世界」
- ・ 「消え去りたい夏の中で」
- ・ 「トイレ番長」

○教科書作品の題名にも、「象徴」や「比喩」が使われていましたね。例えば次の作品はどうでしょうか。

- （二年）「シンシユン」、「星の花が降るころに」、「少年の日の思い出」
- （二年）「アイスプラネット」、「盆土産」、「字のない葉書」
- （三年）「握手」、「高瀬舟」、「故郷」

五 よりよい作品にしよう

—— 推敲 ——

(一) よりよい作品にするために
よりよい作品にするためには、推敲が必要です。巻頭の「推敲の仕方とポイント」に従って、自分の作品を書き直しましょう。また、題名や名前を書く位置、記号の書き方については、巻頭の「原稿用紙の使い方」を参考にしましょう。

(二) 描写の見直し
次の描写を比べてみましょう。描写の仕方によって読み手の受ける印象がどのように変わるか考えてみましょう。事実を客観的に、あるいは心情を主観的に、あるいは視点から見えたものを順番に、あなたの作文にふさわしいのは、どのような描写でしょうか。

(ア) 今まさに、マラソン大会が始まろうとしていた。

(イ) 僕は一步踏みだし、ゆっくりとマラソン大会のスタートラインに立った。さっきまでの耳ざわりだった雑音はもう聞こえなかった。

(ウ) 時計が九時四十五分を示した。スターターがピストルを持つ右手を静かに空に向けて伸ばしていく。空には雲一つなかった。

六 友達と作品を読み合おう

原稿を友達と交換して読み合ってみましょう。お互いのすばらしい点や、さらによくするための改善点を教え合みましょう。



■ 解答を確認しよう

- (一) メディアリテラシー (二) エ

(三) 解答例

論	理	は	ど	の	立	場	に	立	つ	か	ら	に	よ	っ	て
使	い	方	が	変	わ	っ	て	く	る	か	ら	。			

(二十八字)

■ 考え方を確認しよう

解説

- (一) 本文章において、何を鍛えることが「論理的にものを考える」といつながるのか、たどる必要がある。第3[4]5段落では、ひとつの物事に対して「立場」が違うことでとらえ方が変わることが述べられている。第2段落ではその立場を「比較」し、理解する力を「主体的に解読する力」として「つまり」でつないでいることから、「メディアリテラシー」があてはまる。

- (二) 第4段落で筆者が新聞を読んだときの経験をもとに話題を設定している。第7、8段落では「立場性」に関する例をあげ、筆者の主張につなげている。

(三)

解答の手順

手順① 指定語句「立場」「使い方」に印をつけましょう。

手順② 「両刃の剣」と書いてある直前の「立場」に注目し、「論理」の説明として必要な部分を抜き出しましょう。

手順③ 「使い方」という言葉が入っている一文を抜き出しましょう。

手順④

②と③の文の不要な部分や意味が重なっている部分を削り、「論理は」という書き出しに続くように三十字以下で書きましょう。

※文末は「〜から。」や「〜ため。」で結ぶようにしましょう。

論	理	は																	
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

記述問題を解くために

- 何を答えればよいか、つかみましょう。
- 指定語句に○をつけましょう。
- 指定語句を参考に、解答のポイントとなりそうな部分を抜き出しましょう。
- 必要となる部分を付け足したり、同じような内容の部分を比較し、なくてもわかる部分を削ったりして、字数制限内に収まるようにしましょう。

・接続詞や主述のねじれ、文末表現などを見直して、答えの文章全体が正しくなるようにしましょう。



■ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい

筆者は前章で、情報と向き合う際に意識しておきたいことについて、一つは、物事をすべからず「グレー」と考えるべきだと述べている。情報を「シロ」と「クロ」にはつきり識別することは難しく、色分けできるものではないからだ。以下はもう一つの大事なことについての文章である。

① わからないと誰しも不安になります。ニュースを覗いていると、とくにそうです。事件を起こした犯人が捕まっていなければもちろんですが、それだけではありません。

② なぜその事件、災害が起きたのか。どのくらいの被害が生じているのか。どうすれば同じ事件、災害が起きるのを防げるのか。それらがわからなければ、自分たちがどれくらいのリスクにさらされているのかを認識できず、安全、安心の感覚をもてません。

③ 問題は、そうした□が、無理にでも答えを出して「わかった」状態になるうとするよう、人間の心理をうながすことです。わかるはずがないことをわかるうとする、あるいはわかりにくいことをわかったと思いつつ態度に結びついていきます。

④ 犯罪であれば、理解できないもの、嫌悪したくなるものは、「私たちとは性質の違う人間が行ったこと」として心のなかで処理しようとしています。しかし、実際には、犯罪者とそれ以外の人間を隔てるものはそれほど大きくありません。事実を客観的に見極めようという気持ちより、事件から自分を隔絶することで安心しようとする心理が勝ってしまい、犯罪者を強引に「異質」なものとして位置づけようとしています。

⑤ 事件の原因がわからなければ、根拠がろくになくても強引に推論し、なんとなく解明できたというムードを疑似的につくり出す。こうすれば防げるという安心感を得たいがために、効果やコストやマイナスの影響を度外視した非現実的な再発防止案が提案される。わからないことへの不安は、先に述べた「シロ」か「クロ」に単純化する思考にも結びつきやすい。「わからない」に耐えることができず、不安な心理を克服できないと、そのように思考は乱暴になり、ゆがんだ情報に無防備なままさらされて判断を誤ることにもなりかねません。

⑥ ニュースを読んでわからなくても、無理に結論を出さず、その場ではいっ

たんそのまま「わからない」と受け止める。時間をおいて、別な情報にあたり、わからなさを少しずつ解明していく。そうした姿勢が大切だと思います。

(竹田 圭吾「コメントする力 情報を編集×発信する力」による)

(注) ○①～⑥は段落符号である

○コスト＝何かを製造するためにかかった費用。

○度外視＝問題とされるところのものを、特別な主張に立つて全く考慮の外に置くこと。

(一) □にあてはまる最も適当な言葉を、本文中から二字で抜き出して書きなさい。

□

(二) この文章の論の展開について説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選びなさい。

ア 第②段落と第③段落で問題点について述べ、それを受けて第④段落でその解決策に説得力をもたせている。

イ 第①段落で提示した話題について、第②段落から第⑤段落で例をあげて説明し、第⑥段落で主張をまとめている。

ウ 第②段落から第⑤段落では、わからないことがあったときの筆者の体験について詳しく述べている。

エ 第②段落から第④段落で述べた内容について、第⑤段落で問題提起している。

(三) 筆者は第⑤段落で、わからないことへの不安が引き起こす問題点について述べている。それを要約して、五十字以上六十字以下で書きなさい。ただし、「推論」「思考」という二語を用いて、「わからない」という不安から、……という書き出しで書くこと。

わ	か	ら	な	い	と	い	う	不	安	か	ら	、
50												
60												

令和6年度版 **表現の友** 3年

編集 「表現の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話〔0564〕51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

表紙 豊橋 枝松 裕子先生

安城 齋藤みゆき先生

さし絵 豊川 永井 典代先生

豊橋 田中 千晶先生

※無断で複写・複製することを禁じます。



	組
	番
	氏名

